



Section editor 内山富士雄 (内山クリニック) —————●

地域発診療所だより①

無床診療所の在宅診療と後方ベッドの確保

今回の執筆者：古屋 聡

塩山市国保直営塩山診療所

〒404-0042 山梨県塩山市上於曾984-1

当国保直営塩山診療所は、山梨県甲府盆地で甲府市の東方20kmくらいの所にある塩山市の市立診療所です。駅や市役所に近い市中にあります。塩山市は果樹栽培（ぶどう、桃、さくらんぼ）中心の農業と観光を主産業とした人口27,000人に満たない小さな市で、隣の山梨市と近隣数町村をあわせて、ひとつの医療圏として機能しています（数年先には合併になる予定です）。市内に200床くらいの、脳外科、産婦人科も有する一般病院があり、当診療所も含めて市立診療所（無床）が2つ、老人保健施設併設診療所が1つ、他に開業医が6軒、あります。

当診療所は数年前に現在の市内病院が拡充され建て直された際に体制を変更、老人の在宅医療

を中心業務とする診療所に生まれ変わりました。現在は、週3回月水金の午後に内科、整形外科中心の予約外来診療をするほかは主として在宅診療に時間を割いていますが、市の医師として予防注射や検診業務ほかの保健事業にも関与しています。

現在月間のレセプト件数は300件ほどで、訪問診療+往診は月120件程度、在宅での看取りは年間10-15件です。当診療所は公立であることもあり、市の保健婦や介護サービスとの連携は比較的とりやすい環境にある一方で、身寄りのない方やサービスを適切にうけるのが困難な方などの相談も受けることも多く、医療とは別の局面を見る機会も多いです。



100歳の高齢患者を訪問する

僕はふだん50例程度の在宅患者を持っていますが、昨年末から今年の年頭にかけては、ここ数年で初めてとっていいくらい平和であり、年末年始の往診はゼロでした。

(今までで一番手がかかった年末年始は「西暦2000年問題」を控えた年であり、身内が近くにいない在宅患者や家族のために、飲料水、最低限の栄養保証(当院ではエンシュアリキッド)、ろうそく、電池、灯油、ガソリンを準備し、診療所で年を越しました)今年も年頭こそ平和だったものの、インフルエンザも流行らないのにその後紹介入院が相次ぎ、先日当医療圏内の3病院(実際に患者のやり取りが行われるのは圏内では5病院です)に患者の面会に行きましたら、

A病院- 腎盂腎炎1例

B病院- 気管支炎1例、腎盂腎炎1例、上腕骨骨折だがひとり暮らしのため社会的入院1例

C病院- 大腿骨頸部骨折後痴呆化1例、総胆管結石入院後経口摂取不良1例、

肺炎・心不全から復活後痴呆が進んで完全寝たきりになってしまった1例、

介護の夫の痴呆がひどくなって帰れなくなった経管栄養患者1例、

家あまり寒すぎて病院に避難させた痴呆患者1例、

ショートステイで転倒後経口摂取不良・脱水になった1例

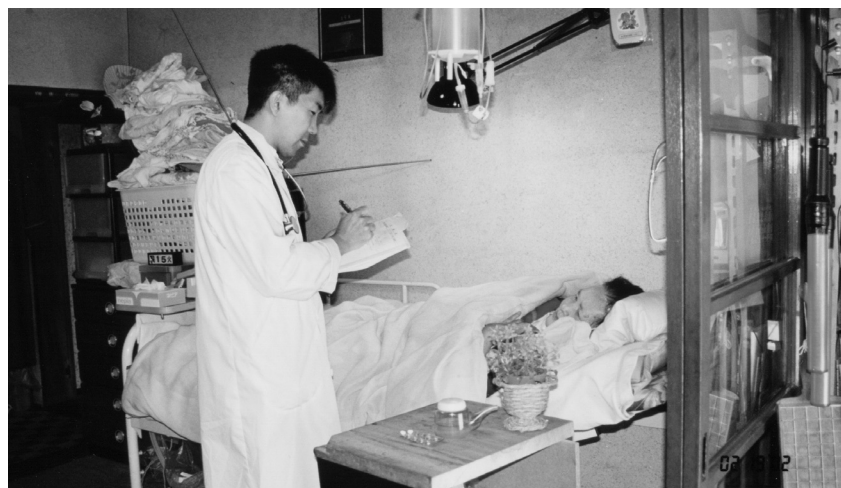
とふだんの訪問患者のうち計10例が入院していました。

(このうち1例は改善して、もう1例は現状改善の見込みがないので、それぞれ来週あたりの退院が予定されています)

さらに現在、もともと痴呆があり、下血で大腸癌が疑われるが検査もせず自宅で看ることが決意されている1例、やはり痴呆があり、風邪→肺炎が疑われるが経済的事情もあり家で頑張るつもり1例を控えています。

当診療所では直接併設の訪問看護ステーションはなく(市営のものはあります)、計4ヶ所のステーションと患者に応じて組んでいます。医療圏内のベッド情勢はかなり厳しいものになっており、インフルエンザの流行もいよいよ県内にやってきて、在宅入院ともいべきインテンシブケアの気構えになっています。

(診療の状況は2002年2月現在)



胃瘻を造設した寝たきり患者の訪問